



3月15日21時

西の空でひときれ目立つのが金星です。日没の頃から一番星として輝きます。すっかり暗くなると、南から西にかけて冬の星たちが、東の空には春の星たちが見えます。

冬の星たちをたどるには、はじめに全天一明るい恒星**おおいぬ座**のシリウスと、**こいぬ座**のプロキオン、**オリオン座**のベテルギウスを結んでできる「冬の大三角」を確かめましょう。オレンジ色のベテルギウスとその下の結んだりボンのように見える星のならびがオリオン座です。オリオン座には白い1等星リゲルも目立ちます。オリオン座の右隣、西の空にはオレンジ色のアルデバランと、V字型にならんだ星の集まりヒヤデス星団があり、ここが**おうし座**の顔です。おうし座の肩にはすばるもあります。おうし座の右上には五角形に見える**ぎよしゃ座**があり、カペラが目立ちます。オリオン座の上には**ふたご座**のカストル、ポルックスがならんでいます。

東に目を移すと、高いところに**しし座**があります。頭の部分は？を裏返したように見え、胸に輝くのは1等星では最も暗いレグルス（小さな王様）です。北東の空高く**おおぐま座**が見え、ひしゃくの形の北斗七星から北極星を探せます。また、北斗七星のひしゃくの柄を伸ばしたカーブ「春の大曲線」をたどると、**うしかい座**のアルクトゥルスを経て**おとめ座**のスピカに届きます。